



参考 蘭部英夫「北欧を考える旅」(全障研出版部)

の作業所を訪問した際、織物にとりくむ彼女らに「仕事が終わったらどうしているの?」と聞くと、「三時過ぎにはラブックに行くのよ。たくさん友だちが来るし、楽しいよ」と教えてくれた。ラブックは若者たちの余暇センター。スポーツや創作、音楽活動にキャンプ、国内や海外への旅行にとりくむ。

「同年代の人を楽しむのと同じように、楽しむ権利を持つということ。ここでは実現している」。いっしょに旅をした山崎さんと佐和さんは



葛飾区の「ぼむぼむ」にて

北欧と日本で考える ——なかまといえる場——

お 英夫
ひで 蘭部

(全国障害者問題研究会事務局長)

映画『男はつらいよ』の舞台・葛飾柴又。その近くにある京成線青砥駅から歩いて五分のところに、「未來空間ぼむぼむ」と「+Choice ぷらすちよいす」がある。

「ぼむぼむ」は、障害のある人もない人も、みんなが気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり、語り合ったりしてホッとする場。フリースペース、たまり場だ。日曜日は午前一時半〜午後三時半、平日は午後六時〜八時まで開いている。

「+Choice ぷらすちよいす」は、区内の作業所などの自主製品のアンテナショップと喫茶店を兼ねている。「ぼむぼむ」が運営している。

「たまり場」は「葛飾区との協働事業『障害のある方の自主活動支援事業』として、夢をひとつずつ実現しているんです」と、と熱く語る山崎

言っていた。「余暇」は「余りの暇」ではない。とても大切な、もうひとつの人生の時間なんだ。

*なかまといっしょにいる場

Aさんは長年勤めていた会社を不況でリストラされた。悩みを率直に語ることができた場が「ぼむぼむ」だった。就職しても障害があればなおさら困難は多い。今は先輩が勤務する会社に就職して清掃などでがんばっている。「ここは癒しの場なんですよ」と彼が言う。

でも、運営はたいへんだ。制度が、財源がない。「すべて政治は人びとのくらしのためにある」という北欧との大きな違いがある。

「サイクリング!」「心のこもったいいねいな字を書きたいあなた!

厚子さん。横でにこやかに微笑んでいるのは佐和佳江さんだ。

二人は葛飾区の福祉職在職中に、仲間と共にこのNPOを立ち上げた。

*北欧・デンマークの「アフター・仕事」

デンマークでは「イブニングスクール」が盛んで、多くの市民が利用している。「手芸」や「乗馬」などのコースに障害のある人が一緒に参加する場合もあれば、知的障害者を対象にした専門コースもある。見学した「音楽コース」には、近くのグループホームから三名が参加し、音楽を楽しむとともに友だちや男女の出会いの場にもなっていた。

二〇〇四年、首都コペンハーゲン

ペン習字」「温泉へ行こう」などなど。この場所を確かに必要としている人たちがここにいる。食事づくりを中心とするスキルアップ講座、体験宿泊にも「ぼむぼむ」は活動をひろげている。



デンマークの余暇センターで